

令和4年度

黒崎小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎的・基本的内容を確実に理解させる授業の実践
- ② 児童の伝え合う力を高める授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 細島 美弥子	委員	研修主任: 藤倉 紘衣 通級指導教室担当: 賀川 晴美 特別支援教育コーディネーター: 野田 慶子
		4学年担任: 榮 言葉 3学年担任: 船越 茜
		2学年担任: 青野 仁 1学年担任: 松浦 弘子

校長

猪子 研司 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 与えられた課題に、真面目に取り組める児童が多い。 ● 学習の理解や定着に時間を要する児童がいる。 ● 学級内に学力の差が見られる。	・ 学習の前提である学習用具の準備が、主体的にできる。 ・ 基礎的・基本的な知識・技能を身につける。 ・ ドリルやタブレットを使って繰り返し練習できる。	・ 学習規律について全教員で共通理解し、全校体制で取り組む。 ・ チェックシートを作成し、児童が自ら学習準備ができるようにする。 ・ 「朝の学習」タイムに、辞書の活用やタブレットでの個別学習を取り入れる。			

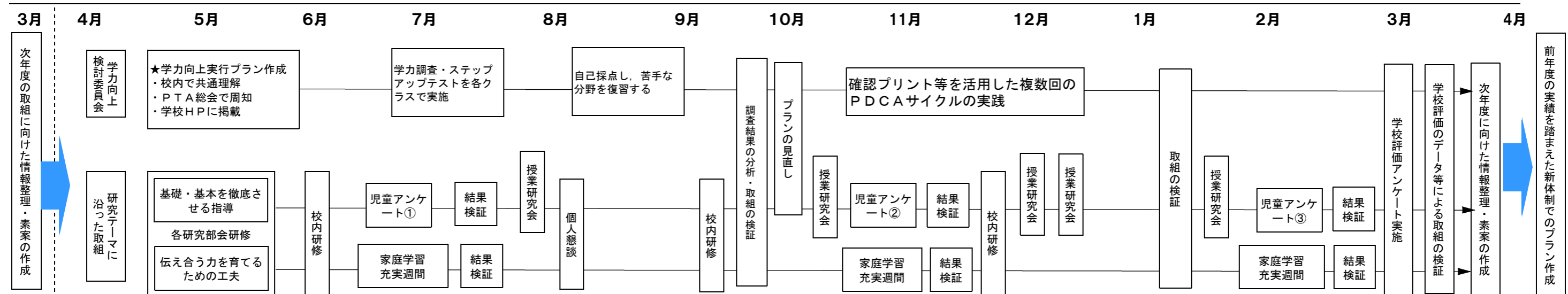
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 少人数の中で、お互いの意見を伝え合うことができる。 ● 考えの理由を挙げて表現することに課題がある。 ● 文章を読み解く力や、知識を活用する力が十分ではない。	・ 根拠や理由を明らかにして、自分の考えを伝えることができる。 ・ 自分の学びをふり返り、伝え合う力を伸ばそうとできる。 ・ 知識を活用した問題を解くことができる。	・ 学年に応じた表現方法を指導していく。 ・ 理由や根拠を明らかにして書いたり話したりする場面を多く設定する。 ・ ホワイトボードや ICT 機器等を活用し、考えを伝え合う活動を取り入れる。 ・ 活用問題を解く時間を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 課題を最後までやり遂げようと努力する児童が多い。 ○ 家庭学習の習慣が身につけている児童が多い。 ● 学力の定着や知識を深めることに結びつくような内容を選択した自主学習ができる児童が少ない。	・ 各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・ 学び方を習得し、自分に必要な学習を選択して家庭学習に取り組むことができる。 ・ すすんで本や新聞を読み、読書生活を豊かにする。	・ ICT 機器等を活用して自ら学習を進められるよう、教材研究に努める。 ・ ノート指導をしたり、良い例を提示したりすることで、学び方を共有できるようにする。 ・ テストで間違えた問題などを自主学習で繰り返し学習できるようにする。 ・ 「多読賞」の児童を表彰する。			

令和4年度 学力向上ロードマップ



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会をとらえ、取組状況の把握を行う。